

初等音楽科教育法に関する研究(1)

— 模擬授業に対する「心理的側面」と「基礎的な能力・知識」との比較より —

A Study of Teaching Methods of Elementary Music Education (1)
— Based on a Comparison with Psychological Aspects for Practice Teaching and Basic Skills —

直江学美 (人間科学部こども学科准教授)
Manami NAOE (Faculty of Human Sciences, Department of Child Study, Associate Professor)

〈要旨〉

筆者は大学の小学校教員養成系学科に所属しているが、学生から音楽への苦手意識や音楽科の模擬授業に対する後ろ向きの気持ちを訴える発言を聞くことが多い。実際、小学校で取り扱われる教科のうち、国語、社会、算数、理科は小学校から大学入学試験に至るまでに知識が蓄積され、生活、体育、図画工作、家庭は発達段階を経てできることが多くなる。一方、音楽は小学校からの音楽科教育を通して学習してきたことや習得したことが蓄積されているとは言えない。

この見地から、本研究では、小学校教員養成系学科に所属する学生が「初等科音楽科教育法」の中で行う模擬授業に対するアンケート調査を行う。アンケート調査の結果を元に、学生の音楽科の模擬授業に対する「心理的側面」と、学生の「音楽活動の基礎的な能力・知識」との比較を行い、学生の音楽に対する苦手意識の原因を検証する。苦手意識の原因を明らかにした上で、模擬授業に至るまでの大学での音楽教育及び、初等音楽科教育法についての考察を行う。

〈キーワード〉

初等音楽科教育法、模擬授業、基礎的な能力

はじめに

金沢星稜大学（以下本学とする）こども学科に在籍する学生のうち、小学校教諭一種免許状取得希望者は、1年次の「器楽」、2年次の「音楽科基礎」を経て、3年次に「音楽科教育法」を履修する。学生は、「器楽」でピアノと弾き歌いを行い、実技系の基礎的な能力と読譜力を習得する。「音楽科基礎」では、音楽に関する基礎的な知識を学び、「音楽科教育法」では、模擬授業を行なうことで授業実践力を身につける。

本学学生は、「教科教育法」で各教科の模擬授業を行っているが、筆者は学生から「模擬授業の中で一番やりたくないのが音楽」との声が聞くことが多かった。

そこで本年、音楽科の模擬授業に焦点を当てたアンケート調査を実施した。回答から、本学学生の音楽の模擬授業に対する「心理的側面」と、「音楽活動の基礎的な能力」との比較を行い、模擬授業に対する本学学生の苦手意識の原因を探る。その上で、模擬授業に至るまでの本学での音楽教育および、模擬授業を含めた初等音楽科教育法のあり

方についての考察を行う。

（なお、アンケートは巻末に資料として添付する。）

1 音楽に関するアンケート調査より

1-1 模擬授業に対する「心理的側面」

アンケート調査は、本学こども学科2年次生のうち、「音楽科基礎」を履修している65名に対して行なった。

なお、アンケート調査のうち、「苦勞を感じる」「苦手である」「楽しかった」「楽しくなかった」などを「心理的な側面」とし、「楽譜が読める」「ピアノや楽器が弾ける」「音程を外さず歌うことができる」などを「音楽活動の基礎的な能力」として考察を行う。また、考察に際しては、選択肢の中から、「楽しみ」「積極的な気持ちである」を選んだ学生を「積極的な学生」とし、「やりたくない」「気が乗らない」を選んだ学生を「後ろ向きの学生」として検証する。

設問は（ ）で表し、8つまで設けた。「心理的側面」を問う(5)(6)を中心の設問として、他の設問(1)(2)(3)(4)(7)(8)との比較を行う。設問に対する選択肢は①②などの

丸囲み数字とする。

まずは、中心の設問(5)(6)の調査内容と結果を示す。

設問(5)「大学の授業で模擬授業を行います、『やってみたい』もしくは『できそう』と思う教科から順番に並べてください」

(5)では、模擬授業を行う9教科を、「やってみたい」順番に、順位をつけてもらった。順位は1から9の数値化し、順位の平均値を求めた。結果は次に示す(表1)。

(表1)「設問(5)の回答結果」

	国	社	算	理	生	音	図	家	体
順位の平均(番)	4.57	4.23	3.97	5.16	5.38	6.13	4.88	5.63	4.95
1-3番目(人)	24	28	34	20	12	13	24	15	24
7-9番目(人)	17	13	17	18	22	35	19	29	22
1番目(人)	9	8	19	2	2	6	4	3	12
9番目(人)	3	3	5	5	4	15	3	5	17

本学学生が模擬授業に対して「やってみたい」と答えた教科を順番に並べると、算数(3.97)、社会(4.23)、国語(4.57)、図工(4.88)、体育(4.95)、理科(5.16)、生活(5.38)、家庭(5.63)、音楽(6.17)であった。音楽の「やりたくない」値が一番高く、順位は最下位である。

音楽科の模擬授業に対して、「やりたい」と思う順位が7から9番目と答えた「後ろ向きの学生」は、65人中35人で、全教科中ワースト1であった。この人数は、ワースト2の家庭(29人)、ワースト3の体育、生活(各22人)を大きく上回る結果となった。次は、設問(6)をみていく。

設問(6)「音楽科の模擬授業を行うことは、あなたにとって①~④のどれに当てはまりますか。」

(6)では、音楽科の模擬授業に対する「心理的側面」を4つの選択肢で聞いた。結果は次に示す(表2)。

(表2)「設問(6)の回答結果」

n=65

	人数(人)	割合(%)
① 音楽は得意で模擬授業を行うのは楽しみ。	11	16.9
② 音楽は得意ではないけど、模擬授業を行うのは楽しみ。	12	18.5
③ 音楽は得意だけど、模擬授業を行うことに気が乗らない。	14	21.5
④ 音楽は得意ではなく、できれば模擬授業をやりたくない。	28	43.1

①②の「楽しみ」を選択した「積極的な学生」は23人(35.4%)、③④を選択し「気が乗らない」と答えた「後ろ向きの学生」は42人(64.6%)である。また、①③を選択した「音楽を得意」と答えた学生は25人(38.5%)、②④を選択した「音楽は得意ではない」と答えた学生は40人(61.5%)である。

設問(5)と(6)の結果をまとめると、本学学生は模擬授業を行う9教科のうち「やってみたい」と思う音楽の順位は最下位であった。また、「得意」「不得意」に関わらず、模擬授業に対して「後ろ向きの学生」が全体の64.5%いた。この結果は本稿の「はじめに」に記した、筆者が学生から聞いた「模擬授業の中で一番やりたくないのが音楽」との

言葉と一致する。また、「音楽は得意ではない」と答えた、音楽に対して苦手意識を持つ学生も61.6%いることが明らかになった。

本学学生が、音楽科の模擬授業に対して後ろ向きになる理由はどこにあるのだろうか。学生の間は模擬授業であるが、実際に教員となれば、「模擬」ではなく、児童に影響を与える授業となる。教員になる前に、音楽科の授業に対して少しでも積極的で、前向きになるためには何が必要なのだろうか。アンケートの結果を一つずつ比較していく。

1-2 「読譜力」と「模擬授業に対する心理的側面」の関係

設問(2)「楽譜(五線譜)が読めますか。自分の主観的な気持ちで構いません。」

(2)では読譜力を調査した。結果は次に示す(表3)。

(表3)「設問(2)の回答結果」

n=65

	人数(人)	割合(%)
① スラスラ苦勞なく読むことができる。	21	32.3
② 時間は少しかかるが、読むことができる。	29	44.6
③ 時間もかかり、読むことに苦勞を感じる。	13	20.0
④ 苦手だ。できれば楽譜は読みたくない。	2	3.1

①②の「読むことができる」を選択した学生は50人で、全体の76.9%であった。本学では1年次の必修科目「器楽」で、ピアノ実技の基礎的能力と読譜力を学んでいる。「器楽」の履修を経て、8割近い学生が「楽譜力がある」と回答している。しかし、③④と答えた、読譜力が不足している学生も15人(23.1%)いる。

読譜力が不足している学生15人と音楽科の模擬授業に対する「心理的側面」とを比較する。この15人の、設問(5)「やりたい模擬授業に対する音楽の順位」の平均値は、8.27であった。また15人全員が、模擬授業における音楽の順位が、7から9番目と答えている。

この結果からは、音楽科の模擬授業に積極的になれない要因に、読譜力が大きく関わっていることが指摘できる。逆の検証も行う。

読譜力がある学生が、項目(5)で答えた音楽の順位の平均値は、5.54であった。特に①「スラスラ苦勞なく読むことができる。」を選択した学生の模擬授業における音楽の順位は4.15であった。また、この学生群に関して言えば、模擬授業に対する音楽の順位は算数(3.97)に次ぐ2位であった。

同様に、読譜力の不足している学生と、項目(6)の結果を比較する。読譜力が不足している15人の、設問(6)への回答は、①(0人)、②(4人)、③(0人)、④(11人)であった。読譜力が不足している学生全員が「音楽は得意ではない」を選択している。その中で、4人(26.7%)は①②を選択し、模擬授業に対して「楽しみ」と前向きな気持ちを

示したが、残りの11人(73.3%)が③④を選択し、「やりたくない」と後ろ向きの気持ちを示した。全学生の割合①②(35.4%)、③④(64.6%)との比較では、読譜力の無い学生は、音楽科の模擬授業に対して、より後ろ向きの気持ちを持つ傾向がある。

読譜力と「模擬授業に対する心理的側面」の関係からは、読譜力の「ある」「なし」は、音楽科の模擬授業に対する「心理的側面」に影響を及ぼすことが示唆された。

1-3 「音楽科の授業に関する記憶」と「模擬授業に対する心理的側面」の関係

設問(3)「音楽の授業に関する記憶や、自身のことについて教えてください」

(3)では学生自身が受けた音楽科の授業について調査した。13の選択肢を設けて、実技に対する「心理的側面」や、「音楽活動の基礎的な能力」、そして、周りからの評価を調べた。結果は次に示す(表4)。

(表4)「設問(3)の回答結果」 n=65

	人数(人)	割合(%)
① 歌うことが楽しかった。	35	53.8
② 歌うことが苦手だった。	11	16.9
③ 歌うことは苦痛だった。	6	9.2
④ 音が外れていると他人から指摘されたことがある。	5	7.7
⑤ 自分は音痴だと思う。	22	33.8
⑥ 自分は音程を外さず歌うことができていると思う。	14	21.5
⑦ リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの楽器を弾くのが楽しかった。	43	66.2
⑧ リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの楽器を弾くのが苦手だった。	9	13.8
⑨ リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの楽器を弾くのが苦痛だった。	2	3.1
⑩ 音楽の授業や行事で指揮や伴奏、ソロなど、何かに選ばれたことがある。	32	49.2
⑪ 音楽の授業や行事で一度も何かに選ばれたことがない。	20	30.8
⑫ 音楽の授業などで歌や演奏を褒められたことがある。	40	61.5
⑬ 音楽の授業などで歌や演奏を褒められたことはない。	8	12.3

歌唱や器楽の音楽実技に対して「楽しい」と答える選択肢①⑦を選んだ学生をみていく。①⑦ともに選択した学生も35名(35.8%)おり、どちらか一方も含め、音楽科の授業で経験した実技に対して「楽しかった」と答えた学生は56人、全体の86.2%にのぼる。

これら実技に対して「楽しかった」と答えた学生56人の項目(6)への回答は①(11人:19.6%)、②(10人:17.9%)、③(14人:25.0%)、④(21人:37.5%)であった。「楽しかった」と答えた学生のうち、①②と答えた「積極的な学生」は21人(37.5%)、③④と答えた「後ろ向きの学生」は35人(62.5%)である。この割合と、全学生の割合①②(35.4%)、③④(64.6%)とを比較すると、割合の差はほとんど見られず、自身が経験した授業内での音楽実技の楽しさが、音楽の模擬授業に対する「心理的側面」に及ぼす影響は、ほぼないといえる。

次に、周りから何かしらの高評価をもらった経験を調査

する⑩⑪⑫⑬を選んだ学生をみていく。⑩⑫は、高評価をもらった経験がある学生、⑪⑬は経験がない学生である。⑩は32人(49.2%)、⑫は40人(61.5%)選んでおり、本学学生は、周りから何かしらの高評価をもらった経験が多いことが分かる。この49人の学生の「音楽の模擬授業」に対する「心理的側面」をみていく。項目(6)への回答は①(11人:22.4%)、②(10人:20.4%)、③(14人:28.6%)、④(14人:28.6%)であった。「何かしらの高評価をもらった経験がある」学生のうち、(6)の①②と答えた「積極的な学生」は21人(42.9%)、③④と答えた「後ろ向きの学生」は28人(57.1%)である。この割合と、全学生の割合①②35.4%、③④64.6%と比較すると、周りから何かしらの高評価をもらった経験がある学生は、音楽科の模擬授業に対して、より積極的になれていたが、その差は大きくはないといえる。次に、逆の、「周りから高評価をもらったことがない」と答えた⑪⑬の学生をみていく。

選択したのは⑪20人(30.8%)、⑬8人(12.3%)であった。これら、周りから高評価をもらったことのない学生の「音楽の模擬授業」に対する「心理的側面」をみていく。学生22人の項目(6)への回答は①(2人:9.1%)、②(6人:27.3%)、③(2人:9.1%)、④(12人:54.5%)であった。また、⑪も⑬も選択した学生4人は全員、④「音楽は得意ではなく、できれば模擬授業をやりたくない」と答えている。ただ、周りから高評価をもらったことがない学生が①②と答えた割合36.4%、③④と答えた割合63.6%と、項目(6)の全学生の割合①②(35.4%)、③④(64.6%)と比較しても、その差はほとんどみられなかった。

特筆すべきこととして、選択肢の⑤「自分は音痴だと思う」を選んだ学生が65人中22人おり、その割合は33.8%にのぼった。この人数は、⑥「自分は音程を外さず歌うことができていると思う」と答えた学生14人に対して、1.57倍も多い数であった。この⑤「自分は音痴だと思う」と答えた学生22人の音楽の模擬授業に対する「心理的側面」をみていく。設問(6)への回答は①(3人:13.6%)、②(1人:4.5%)、③(3人:13.6%)、④(15人:68.2%)であった。65人全員の回答①(16.9%)、②(18.5%)、③(21.5%)、④(43.1%)と比較すると、「自分は音痴だと思う」と答えた学生の、模擬授業に対する「心理的側面」は、より後ろ向きであることが分かる。また、設問(6)の①③を選択して「音楽は得意」と答えた学生は6人、②④を選択して「音楽は得意ではない」と答えた学生は16人である。

逆の選択肢⑥「自分は音程を外さず歌うことができていると思う」を選んだ学生をみていく。それら14人の学生の音楽科の模擬授業に対する「心理的側面」は①(4人:28.6%)、②(3人:21.4%)、③(5人:35.7%)、④(2人:14.3%)であった。65人全員の回答①(16.9%)②(18.5%)

③ (21.5%) ④ (43.1%) と比較すると、母数は少ないものの「自分は音程を外さず歌うことができていると思う」と感じる学生の、音楽科の模擬授業に対する「心理的側面」は、より積極的であるといえる。また、①③を選択して「音楽は得意」と答えた学生は9人、②④を選択して「音楽は得意ではない」と答えた学生は5人である。

「音楽科の授業に関する記憶」と「模擬授業に対する心理的側面」の関係をまとめる。⑤「自分は音痴だと思う」、⑥「自分は音程を外さず歌うことができていると思う」を選んだ学生と「心理的側面」との比較からは、音程に対する基礎力が、音楽の模擬授業に対する「心理的側面」、また音楽に対して得意と感じる気持ちに影響を及ぼしていることが伺えた。一方、「楽しい」と感じることで、周りから何かしらの高評価を得たことがある経験や、逆の、評価を得たことがない経験は、音楽の模擬授業に対する「心理的側面」に与える影響はほとんどないこともわかった。(3)の設問からは、模擬授業に対する「心理的側面」が積極的であるためには、「楽しい」などの音楽経験よりも、「音楽活動の基礎的な能力」が必要であることが示唆された。

1-4 「器楽」と「模擬授業に対する心理的側面」の関係

設問(4)「大学の『器楽』の授業で演奏したピアノについて教えてください。」

(4)では、「器楽」での演奏能力が音楽科の模擬授業に対して、どのような影響を与えているか考察する。なお、「器楽」は、器楽(ピアノ)の経験の有無に関わらず本学こども学科の全員が1年次に履修する。結果は次に示す(表5)。

(表5)「設問(4)の回答結果」

n=65

	人数(人)	割合(%)
① 得意だし楽しかった。	10	15.4
② 得意だが好きではなかった。	1	1.5
③ 弾くのは大変だったけど楽しかった。	44	67.7
④ 弾くのは大変で好きではなかった。	1	1.5
⑤ かなり苦手だけど頑張った。	8	12.3
⑥ かなり苦手が好きではなかった。	0	0
⑦ 得意でも苦手でもなく、何も感じなかった。	1	1.5

①②と答えた、器楽が「得意」な群は11人(16.9%)、③④と答えた、「弾くことは大変」な群は45人(69.2%)、⑤⑥と答えた、「かなり苦手」な群は8人(12.3%)であった。他に「好きだけど、苦手だった。楽しくなかった。」と書いた学生が一人、また、④と⑤の両方を答えた学生が一人いた。

①③⑤の「楽しかった」「頑張った」と答えた「積極的な学生」は61人おり、全体の94%、②④⑥と自由記述で「好きではなかった」と答えた「後ろ向きの学生」は4人

であった。

器楽を「楽しかった」「頑張った」と答えた学生61人の項目(6)への回答は①(11人:18.0%)、②(11人:18.0%)、③(23人:23.0%)、④(25人:41.0%)であった。全学生の回答①(11人:16.9%)、②(12人:18.5%)、③(14人:21.5%)、④(28人:43.1%)と比較するとほぼ同じ結果となり、「器楽」に対して「積極的な気持ち」を持つことと音楽科の模擬授業に対する「心理的側面」との関係はみられなかった。

「得意」と「不得意、苦手」で比較してみる。「得意」な学生11人の(6)への回答は、①(4人:36.4%)、②(2人:18.2%)、③(5人:45.5%)である。「不得意、苦手」な学生45人の(6)への回答は、①(7人:15.6%)、②(10人:22.2%)、③(9人:20.0%)、④(19人:42.2%)、「かなり苦手」と答えた学生8人は、全員が④と答えていた。

「器楽」と「模擬授業に対する心理的側面」の関係をまとめる。「器楽」を「楽しかった、頑張った」と感じた積極的な「心理的側面」と音楽の模擬授業に対する「心理的側面」との関係はみられなかった。しかし一方、「器楽」を「得意」「不得意、苦手」の観点から「音楽の模擬授業」に対する「心理的側面」をみると、「得意」な層は積極的な割合が高く、「苦手、不得意」の層は積極的な割合が低く、さらに「かなり苦手」と感じた層は、全員が④「音楽は得意ではなく、できれば模擬授業をやりたいくない」を選択している。このことから、「楽しさ」より、「器楽の演奏能力」が、学生の音楽の模擬授業に対する積極的な気持ちを高めるといえる。

2 模擬授業に対する「心理的側面」を考える

2-1 積極的な学生たち

設問(7)(6)の①と②と答えた人に質問です。どの気持ちに近いですか。

(7)は模擬授業に対して積極的な学生に対して、その理由を調査した。結果は次に示す(表6)

(表6)「設問(7)の回答結果」

n=23

	人数(人)	割合(%)
① ピアノや楽器を弾くことができるので、積極的な気持ちである。	8	34.8
② 楽器を弾くことが好きなので、積極的な気持ちである。	6	26.1
③ 楽譜が読めるので、積極的な気持ちである。	4	17.4
④ 音楽の知識があるので、積極的な気持ちである。	1	4.3
⑤ 歌うことが得意なので、積極的な気持ちである。	2	8.7
⑥ 歌うことが好きなので、積極的な気持ちである。	11	47.8
⑦ 音楽が得意なので、積極的な気持ちである。	13	56.5

(「音楽活動の基礎的な能力」に関する選択肢は網掛けで示す)

自由記述「初見で弾けないのが不安」「音楽を好きな児童は多いだろうから、授業を楽しくできそう」

選択肢では、気持ちの近いものから並べるように依頼し

たが、1番に答えた項目と人数は、多いものから⑦(10人)、②(5人)、①(4人)、⑤(1人)、⑥(3人)であった。

「積極的な学生」の多くは、模擬授業に対して積極的になれている理由として「音楽が好き」「歌うことが好き」などの「心理的な側面」を挙げた。一方、「ピアノが弾ける」「楽譜が読める」などの「音楽活動の基礎的な能力」を理由に挙げた学生は多くなかった。

2-3 後ろ向きの学生たち

設問(8)(6)の③と④と答えた人に質問です。どの気持ちに近いですか。

(8)は模擬授業に対して「後ろ向きの学生」に対して、その理由を調査した。回答者が多い選択肢から並べる。結果は次に示す(表7)。

(表7)「設問(8)の回答結果」 n=42

	人数(人)	割合(%)
① ピアノや楽器を弾けていたら、積極的になれると思う。	25	59.5
② 音楽の知識が豊富だったら、積極的になれると思う。	22	52.4
③ 楽譜が苦勞なく読めていたら、積極的になれると思う。	6	14.3
④ 音痴でなければ、積極的になれると思う。	10	23.8
⑤ 音楽が好きだったら、積極的になれると思う。	3	7.1
⑥ 何をしても、積極的になれないと思う。	3	7.1

(「音楽活動の基礎的な能力」に関する選択肢は網掛けで示す)

自由記述「目的とかゴールがわからない」「自分が楽しむことはできても人に教えることはできないと思うから」「音楽の授業をするためには、教師が上手な歌とピアノで興味をひくことが大切だと思うから」「上手く歌える自信がないから」

(7)と同様に、気持ちの近いものから並べるように依頼したが、1番に答えた項目と人数は、多いものから①(18人)、②(12人)、④(6人)、⑥(3人)、⑤(1人)であった。

「後ろ向きの学生」が多く選んだ「ピアノや楽器が弾けていれば」の言葉からは「楽器の演奏能力」、音楽の知識が豊富であれば」の言葉からは「音楽の知識」、「音痴でなければ」の言葉からは「音感」の欠如が、模擬授業に対して積極的になれない原因となっていることが見て取れる。また、「積極的な学生」が、音楽に対して「好き」などの「心理的な側面」を答えていた結果とは対比的に、理由に「好きではない」などの「心理的な側面」を答えた学生は少数であった。

3 より良い「音楽科教育法」のために

ここまで、音楽の模擬授業に対するアンケート調査の結果を元に、学生の模擬授業に対する「心理的な側面」と、学生の「音楽活動の基礎的な能力」との比較を行い、模擬授業に対する本学学生の苦手意識の原因を探ってきた。その

結果、学生が「後ろ向きの気持ち」になる理由として挙げているのは「読譜力」「楽器の演奏能力」「音楽の知識」「音感」の欠如であった。

実際、国語、社会、算数、理科は小学校から大学入学試験に至るまでに知識が蓄積され、生活、体育、図画工作、家庭は発達段階を経て、できることが多くなる。しかし音楽科は、小学校から学習してきたことや習得したことが蓄積されているとは言えず、本アンケートの結果からも、そのことが示唆された。

吉富功修は、小学校音楽科の目標を①音楽を愛好する心情を育てる、②音楽に対する感性を育てる、③音楽活動の基礎的な能力を培う、④豊かな情操を養う、の4つに分けて次のように考察をしている。「国語科と算数科のいずれの教科の目標も、音楽科の目標にある心情、感性、情操というあいまいな話はなく、音楽科の目標よりもはるかに明確である」、国語科では、すべての児童に『国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成』することが第1の目的になっています。(…)算数科では『数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け』させることが第1の目的になっています。」と分析し、「国語」は「読み書きの力」を、「算数」は「分数や減算の力を、すべての子どもに保障しています。」と述べている。その上で「現在の小学校音楽科の目的は、③に示された『音楽活動の基礎的な能力の育成』を重視し、その達成を図りつつ、同時に①②④の達成を目指すべきであると考えます。つまり、音楽的な読み書きの能力を保障することによって、すべての子どもの音楽的自立が可能になる」と述べている(吉富 2010)。

吉富が指摘する「音楽活動の基礎的な能力の育成」の大切さは、小学校音楽科として、児童に対するものである。しかし、本調査結果からも、小学校教員を目指す本学学生にとっても、「音楽活動の基礎的な能力」が学生の音楽科の模擬授業に対する「心理的な側面」に大きく関わっていることが示唆された。特に音楽科の目標は他教科とは異なり、吉富の番号を借りるならば①音楽を愛好する心情を育てる、②音楽に対する感性を育てる、④豊かな情操を養う、と「心情」「感性」「情操」が掲げられている。音楽科が感情的、「心理的な側面」を大切にできる教科である以上、教員の「心理的な側面」が後ろ向きであると、児童にとっても、教員にとっても良い学びをもたらさない。そのためにも、大学の音楽科に関する学びの中で、「音楽活動の基礎的な能力の育成」が何よりも大事であり、学生が基礎的な能力を身につけることにより、前向きな気持ちで模擬授業に臨むことが必要であるといえる。

おわりに

本研究では、筆者が本学学生から「模擬授業の中で一番やりたくないのが音楽」などと聞いたことに端を発し音楽の模擬授業に対するアンケート調査を行なった。学生の回答を元に、音楽科の模擬授業に対する「心理的側面」と、「音楽活動の基礎的な能力」とを比較し、検証してきたが、音楽科の模擬授業に対して本学学生が積極的になれない原因に「音楽活動の基礎的な能力」の欠如があることが示唆された。また、本研究で明らかとなった「音楽活動の基礎

的な能力」とは、「読譜力」「楽器の演奏能力」「音楽の知識」「音感」である。

本稿では、今後、模擬授業に至るまでの大学での音楽教育及び、初等音楽科教育法についての考察を行うための、基礎的データの提示と検証を行なった。今後は、本研究を元として、まずは「音楽活動の基礎的な能力」の詳細な検証を行い、その上で、本学での模擬授業に至るまでの音楽教育および、これからの大学における初等音楽科教育法のあり方を模索し、提案していく。

引用文献

吉富功修 2010「音楽科教育の目的」『小学校音楽科教育法 学力の構築をめざして』。(ふくろう出版), 3-5頁。

資料 「アンケート」

- (1) あなたの音楽経験（授業、部活動、習い事）について教えてください。尚、「音楽」はクラシックや邦楽、洋楽を問いません。
- ① 小学校、中学校と大学の授業のみ。
 - ② 小学校、中学校、高等学校と大学の授業のみ。
 - ③ ①、②に加えて、音楽系の習い事をやったことがある。
 - ④ ①、②に加えて、音楽系の部活動に所属したことがある。
 - ⑤ ①、②に加えて、音楽系の習い事も部活もやったことがある。
- (2) 楽譜（五線譜）が読めますか。自分の主観的な気持ちで構いません。
- ① スラスラ苦勞なく読むことができる。
 - ② 時間は少しかかるが、読むことができる。
 - ③ 時間もかかり、読むことに苦勞を感じる。
 - ④ 苦手だ。できれば楽譜は読みたくない。
- (3) 音楽の授業に関する記憶や、自身のことについて教えてください。（複数回答してください）
- ① 歌うことが楽しかった。
 - ② 歌うことが苦手だった。
 - ③ 歌うことは苦痛だった。
 - ④ 音が外れていると他人から指摘されたことがある。
 - ⑤ 自分は音痴だと思う。
 - ⑥ 自分は音程を外さず歌うことができていると思う。
 - ⑦ リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの楽器を弾くのが楽しかった。
 - ⑧ リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの楽器を弾くのが苦手だった。
 - ⑨ リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの楽器を弾くのが苦痛だった。
 - ⑩ 音楽の授業や行事で指揮や伴奏、ソロなど、何かに選ばれたことがある。
 - ⑪ 音楽の授業や行事で一度も何かに選ばれたことはない。
 - ⑫ 音楽の授業などで歌や演奏を褒められたことがある。
 - ⑬ 音楽の授業などで歌や演奏を褒められたことはない。

- (4) 大学の「器楽」の授業で演奏したピアノについて教えてください。

- ① 得意だし楽しかった。
- ② 得意だが好きではなかった。
- ③ 弾くのは大変だったけど楽しかった。
- ④ 弾くのは大変で好きではなかった。
- ⑤ かなり苦手だけど頑張った。
- ⑥ かなり苦手が好きではなかった。
- ⑦ 得意でも苦手でもなく、何も感じなかった。

- (5) 大学の授業で模擬授業を行います。「やってみよう」もしくは「できそう」という教科から順番に並べてください。記入は「国」「社」のように、最初の1文字で構いません。

国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図工、家庭、体育

- (6) 音楽科の模擬授業を行うことは、あなたにとって①～④のどれに当てはまりますか。

- ① 音楽は得意で模擬授業を行うのは楽しみ。
- ② 音楽は得意ではないけど、模擬授業を行うのは楽しみ。
- ③ 音楽は得意だけど、模擬授業を行うことに気が乗らない。
- ④ 音楽は得意ではなく、できれば模擬授業をやりたくない。

- (7) (6)の①と②と答えた人に質問です。どの気持ちに近いですか。

- ① ピアノや楽器を弾くことができるので、積極的な気持ちである。
- ② 楽器を弾くことが好きなので、積極的な気持ちである。
- ③ 楽譜が読めるので、積極的な気持ちである。
- ④ 音楽の知識があるので、積極的な気持ちである。
- ⑤ 歌うことが得意なので、積極的な気持ちである。
- ⑥ 歌うことが好きなので、積極的な気持ちである。
- ⑦ 音楽が好きなので、積極的な気持ちである。

- (8) (6)の③と④と答えた人に質問です。どの気持ちに近いですか。

- ① ピアノや楽器が弾けていたら、積極的になれると思う。
- ② 音楽の知識が豊富だったら、積極的になれると思う。
- ③ 楽譜が苦勞なく読めていたら、積極的になれると思う。
- ④ 音痴でなければ、積極的になれると思う。
- ⑤ 音楽が好きだったら、積極的になれると思う。
- ⑥ 何をしても、積極的になれると思う。